

# 覚えておこう！！フィールドサイン

動物を直接見ることがなくても、食痕やフンなどの動物の痕跡（フィールドサイン）を見つけることで、どこに出てきているかが分かります。被害対策は、フィールドサインの多い場所にするとう�효的です。

## フンいろいろ



サルのフン



イノシシのフン



シカのフン



ウサギのフン

サルとイノシシのフンは良く似ていますが、イノシシは繊維質のものを食べるので、フン同士がつながっていることが多いです。

シカのフンは、ポロポロとした粒状です。ウサギのフンと良く似ていますが、ウサギのフンが“あんぱん型”なのに対し、シカのフンは“たわら型”をしています。

## 足跡をくらべる

シカとイノシシは偶蹄目（ぐうていもく）という蹄（ひづめ）を持つ仲間です。しかし、足跡を比べてみると、違いがあります。シカの足跡には、1対のひづめの跡しか残らないのに対して、イノシシには副蹄という後ろのひづめの跡も残ります。



シカ(左)とイノシシ(右)の足跡

## その他のフィールドサイン



ケモノ道



どろこすり跡



シカの食痕

イノシシやシカなどが通る場所は、道のようにになります。これがいわゆる“ケモノ道”です。被害の多い場所にはケモノ道がたくさんあります。また、イノシシは泥のついた体を木にこすりつける習性があります。ケモノ道にどろこすり跡があったら、イノシシが通っています。また、ケモノ道の周りに生えている植物の先に食いちぎったようなあとがあれば、シカがそこで植物を食べている証拠です。

## あまり効果がない方法



獣害対策は、今まで紹介してきた方法以外に、動物を驚かして農地から遠ざける方法があります。この方法は、効果が短期的で、逆に動物を農地に引き寄せてしまう場合もあるので、使用する際には注意が必要です。以下に防除例を紹介します。

### 音による防除



爆音機

#### 実際におこなわれている例

爆音機、ラジオ、ししおどし、目覚まし時計、空き缶、ペットボトル、爆竹など

突然音を鳴らすことで、動物を驚かす効果を狙った防除方法です。最初のうちは効果がありますが、危険がないと分かると全く効果がなくなります。短期的に使用する、定期的に場所を移動させるなど工夫が必要です。

### においによる防除



プラスチックを燃やした例

#### 実際におこなわれている例

髪の毛、タバコ、木酢液、線香、オイル、猛獣の糞尿、イノシシの皮を燃やすなど

野生動物が嫌がる匂いで、追い払う効果を狙った防除方法です。全く効果のない場合もあり、あっても効果は一時的です。猛獣のふんなどは、イノシシが逆に喜んで体をこすりつけたという実験結果もあります。

### 視覚による防除



トタンを使った例

#### 実際におこなわれている例

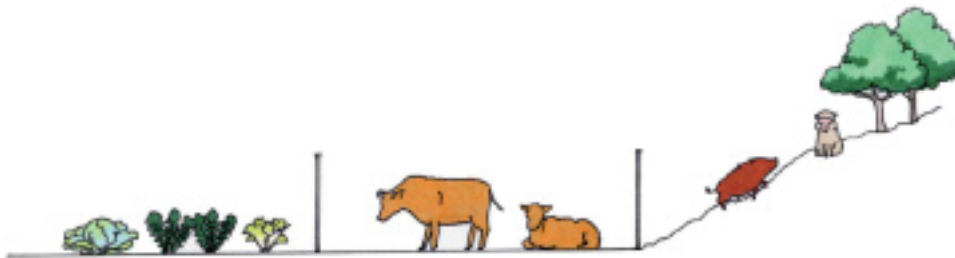
空き缶、金物の切れ端、鏡、ペットボトル、ライト、松明たいまつなど

物や光が動くことで、動物に警戒心を与える防除方法です。方法によっては、最初のうちだけ効果がありますが、全くない場合もあります。

# その他の対策事例

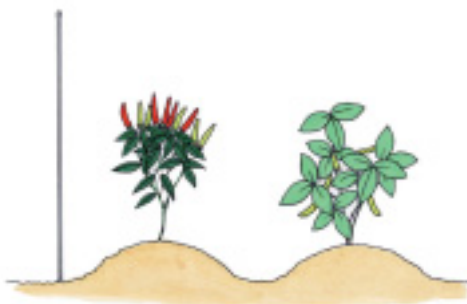
## ○ウシの放牧

耕作放棄地を管理するには多大な労力を必要とするため、実際には難しいと思います。この方法は、ウシを田畑と山の間にある遊休地などに放牧することで、ウシに雑草を食べてもらい、土地を管理しようという方法です。開けた空間を嫌うイノシシに効果的です。県内では、徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究所が研究に取り組んでいます。



放牧のイメージ図

## ○作付けの工夫



外側にトウガラシなどを植える

イノシシやサルなどが食べない作物を作付けして、被害をなくす方法です。最近では、イノシシがあまり食べないイネとして、滋賀県で「シシクワズ」という品種の実験が行われています。

また、これらの作物を山際の農地や目につきやすい場所に作付け、被害作物は防護柵で囲うなどの組み合わせにより、被害をなくす方法も試みられています。

	サル	イノシシ
食べない作物	タカノツメ、コンニャク、クワイ	タカノツメ、ゴボウ、シソ、白ねぎ、ウコン、ミント、ニンニク、ショウガ
比較的食べない作物	ピーマン、サトイモ、シュンギク、バジル、ミント、ショウガ、トウガラシ(青)	コンニャク、トウガラシ、ピーマン、パプリカ、バジル

滋賀県農業技術振興センター試験結果より

※これらの被害を受けにくい作物の効果は、イノシシやサルの学習レベルによって違います。どのくらい効果が持続するか、どの作物の効果が最も高いかは地域差があります。作物の導入にあたっては、各地域で栽培実験を行う必要があります。